

生徒会長になれたからこそ学べたこと

国府津中学校 三年 海野 佑衣

生徒会長の経験が私の人生観を変えた。

幼少期は人見知りで親戚の集まりさえ親の後ろに隠れるか部屋の隅にいるような子、小学生になつてもそれが治るわけもなく、授業で意見を述べることや発表することが怖く、人前がとにかく苦手。もちろん自分でもこのままではダメだと思っていたが、簡単に行動を変えることはできず、ただ気持ちが焦るばかりだった。

小学校高学年のときに、ある友人のおかげで少し変わることができた。その子はとても明るく友人も多い。一緒にいると自然と笑顔になるような子で、そこに集まる人の輪に入り、学校生活を共にするうちに、今まで苦手と思っていた「人と関わること」が自然と苦手に感じなくなっていることに気づいた。

中学校に入学すると、今度こそ自分を変えたい、そのためには新しいことに挑戦しなければと思っていたときに、生徒会という委員会があることを知る。

調べると、一定の役職に就くには生徒会役員選挙で当選する必要があり、選挙では人前に立つて意見を述べなければならなかつた。

自分の一番苦手なことができるのか。本当に全校生徒の前で話せるのか。今まで避けてきたせいで自信が持てない。一人でずっと悩んだ。でもここで行動しなければ小学生のときと同じではないかと思い、立候補を決意。そこからはどうすれば当選できるかだけを考え、先輩をはじめ人脈を広げる努力をした。

そして、あつという間に立ち合い演説当日を迎えた。今まで経験したことがない緊張に立候補なんてするじやなかつたと、何度も後悔をした。演説台に立ち、顔を上げると、会場にいる全員が注目している。ただただ必死で、原稿を読む声は震えていたと思う。

演説をなんとか終え、再び会場を見渡すと演説前とは違う、達成感に満ちた清々しい気分だった。

しかしながら人生初の選挙は見事に落選。悔しくて悔しくて結果を知らされたその場で泣いた。一緒に応援演説をしてくれた先輩が「よく頑張つていたよ。来年は会長になつて笑顔で報告してね。」と優しい言葉に私はさらに泣き崩れる。でも正直なところ、来年も同じ結果になつたらと思うと怖くて役員選挙に出る勇気などない。

会長の指名で庶務になり、間近で一年間、生徒会長を觀察し続けた。

会議で全員が発言しやすいよう場を作る技術、全校集会で堂々とスピーチをしている姿は憧れに変わり、そこを目指したいと思うようになつていつた。

そして翌年は、会長に立候補。今回の演説も、もちろん緊張する。でも声は震えない。前年役員の経験と温めていたビジョンを武器に、自信をも持つて演説をすることができた。

実際に会長をやつてみると、人間関係や何事も常に一步先を考えておくこと、スピーチの練習など、見えないところでの苦労が多い。

中学では人見知りを治すことを目的に、生徒会長を目標とした。今は友人からコミュニケーションお化けと呼ばれることがある。

たつた一人の友人がきっかけとなり、人は変わることができる。また、途中で失敗をしてもそれは無駄にはならない。むしろ失敗をした方が、得るものが多いかもしれない。悩むよりも、行動と経験を積むことが、私の課題解決法だつたことを中学校生活で学んだ。

そして、挑戦するときに友人や先輩、先生がいつも隣で応援してくれたことが、毎日とても心強く、何にも代えがたい幸せだった。ずっと感謝を忘れることはない。

いつの日か、私も誰かを応援する側になれたらと思う。